

## “とちぎ”の未来を守る ～流域治水の推進～

### 1. はじめに

栃木県では42年ぶり、全国的にはコロナ禍の中、3年ぶりとなる国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」及び全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」を10月に開催いたしました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い前例のない対応を行って参りましたが、大会に携わっていただいた全国の多くの選手、役員、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



「いちご一会とちぎ国体」開会式

さて、本県は、日光国立公園をはじめとする美しい自然、世界遺産「日光の社寺」に代表される歴史と文化、豊富な温泉、おいしい水や多彩な食など、魅力あふれる観光資源に恵まれております。

産業では、自動車などの製造業において国内トップクラスの企業が集積し、全国有数の「ものづくり県」であります。また、農業では、「とちおとめ」で有名な“とちぎのいちご”が、昭和43年から半世紀以上にわたり生産量日本一の「いちご王国とちぎ」です。

このように、歴史と文化に富み、産業のバランスが優れ、自然豊かな県土であります。

### 2. 栃木県における水災害

本県では、平成27年関東・東北豪雨において、関東地方初となる大雨特別警報が発令され、全県で6,126戸の住家被害が生じました。また、令和元年東日本台風においても、大雨特別警報が発令され、はん濫発生情報を5河川で同時に発表する事態となり、県内河川では、13河川27箇所で決壊、32河川40箇所で越水・溢水し、14,222戸の住家被害が生じました。



令和元年東日本台風 秋山川の決壊状況

### 3. 流域治水の推進

#### 1) 栃木県流域治水プロジェクト

全国的に水災害が頻発・激甚化する中、県内において5年間に2度の大水害を経験したことから、治水の重要性を再認識し、これまでの河川管理者による対策だけでは水災害を防ぎきれないと実感したところです。



栃木県知事 福田 富一

そこで、流域のあらゆる関係者が協働して治水対策に取り組む「流域治水」を推進するため、「栃木県流域治水プロジェクト」を令和3年9月に策定・公表いたしました。

## 2) 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河川事業としては、河道整備や遊水地の整備に積極的に取り組むとともに、腹付けや巻堤等による堤防強化対策にも積極的に取り組んでいます。



五行川 芳賀遊水地

また、下水道事業においては、同じく令和元年東日本台風により、浸水被害を受けた小山市において、浸水被害を軽減するため、新たに雨水幹線及び調整池や雨水ポンプ場の整備に取り組んでいます。

さらに、農村地域の雨水流出抑制の取組を広く展開するため、各流域において推進方針を順次策定し、市町や土地改良区と連携しながら、田んぼダム等の取組を県内全域に広めていくこととしております。

## 3) 被害対象を減少させるための対策や被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

小山市及び那須烏山市においては、住居を災害リスクの高い地域からより安全な地域へ移転するための防災集団移転の取組を始めるとともに、市町による立地適正化計画の策定を促し、災害リスクの低い地域への居住誘導等を促進することとしています。

また、発災時の住民の円滑な避難を図るため、洪水浸水想定区域を拡大することとし、今後新たに169河川を追加し、浸水リスクの空白地帯解消に向けた取組を推進しています。

## 4. おわりに

今後も、流域治水の普及啓発に取り組みつつ、あらゆる関係者との協働により浸水被害を軽減させ、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指すこととしております。

さて、来年（令和5年）1月には、本県宇都宮市において、一般社団法人全日本建設技術協会の建設技術講習会が開催され、地域事業の紹介として、先述した小山市の取組についての講演が予定されています。また、現場研修では、「栃木県下水道資源化工場」、「宇都宮駅東口地区整備事業」や全国初の新たな軌道整備による「LRT整備事業」等もご覧いただけますので、多くの皆様のお越しをお待ちしております。